



住宅リフォーム推進協議会会長賞

講評： 八尾市周辺には古民家が多く残っている。この家は築70年の古民家のリフォームである。広い家ではあるが、施主夫妻は、それぞれ介護施設理事長、幼稚園園長として活躍しているので、仕事柄、家で人を迎えるの会合も多い。たとえば、幼稚園の先生のミーティングが開かれ、その折に台所を使って調理したりもする。また週末には、子息の家族が訪れることもしばしばという。リフォームの当初の目的は、同居している母親のため、高齢者の住みやすい家にするのであった。

設計は大学に勤める建築家と友人の照明デザイナーの二人。施工者は土地柄もあるが、経験ある大工を多く抱えている工務店である。構造安全性は構造専門家による限界耐力計算で確かめている。基礎は40年ほど前に数メートル曳き家をした時にコンクリート基礎に直してある。

この家のリフォームの大きな特長は、時間をかけてじっくりとリフォームしたことと、見事なデザインの照明の2点である。施主の要望を的確に把握し、かつ適正な費用で実現するには時間が必要である。一見、さして苦勞もなく出来ているように見えるのは、破綻のないデザインと納め方にこだわったこと、そしてそれを実現できる施工者がいたことによる。たとえば、古民家に新たなデザイン要素を持ち込むためには、床レベルや軒先の線（地回り）をどこに揃えるかという基本的なことと葛藤せざるを得ない。現地調査に1年半かかるなど一般的なリフォームでは考えにくい慎重さであるが、これをじっと待った施主もさすがである。

秀逸なのは、各室の照明デザインで、それぞれの部屋の用途・

空間の質に合った照明を設計し制作している。たとえば、玄関の天井ルーバーに寸法を合わせた蛍光照明や、2階ホールの柔らかいマット状のフロアスタンド、寝室のペンダント照明などは各空間をここにしかない輝きで満たしている。

天井高の低かった2階は、古い陸天井を取り払い、小屋裏を現わすことによって、この家が本来持っていた大らかな空気を一気に取り戻したかのようである。施主夫妻がこの2階を見て、寝室にすることを希望されたというのは、建築設計者が時間をかけて建物の状況を見極め、空間を組み立て直し、照明と一体になって命を与えた結果である。

見識の高い施主や腕の良い大工に支えられて、このような素晴らしいリフォームが実現したことは言を待たない。住宅リフォーム推進協議会会長賞にふさわしい内容である。

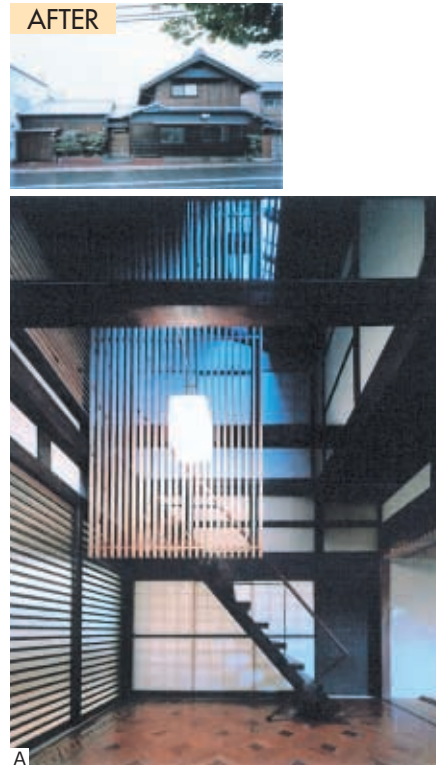


リフォーム前後の写真

BEFORE



AFTER



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

3世帯家族であった頃に付加した間仕切りを、子供達の独立を契機に取り払い、住み始めた当時の風合いの中で家全体を気持ち良く過ごしていきたいという要望がクライアントよりありました。もともとは住宅兼シン工場(2F部分)であった築70年の木造家屋を40年前に購入されたのですが、室内は薄暗く各部屋をどのように快適な環境にできるかがリフォームの主要課題となりました。本計画では、住宅の中心に位置する玄関ホール上部にガラス瓦を設置し、屋根からの光が襖やガラスを通して主要な居室へと導かれるような工夫をおこなっています。また、既存階段の手

摺りを兼ねた木製のルーバーにより、自然光を拡散させ柔らかな雰囲気 indoors にもたせると共に、夜間時にも隣接した照明光を空間全体に放射させるような試みをしています。新築に相当する費用をかけてでもこの家を残したいというクライアントの愛着感、リフォームによって御子息にも及び、将来引き継いで住み続けて行く予定になっています。

特に配慮した住宅性能：基本的なリフォームの方針として、伝統的木軸住宅の良さ・空間特性を活かしながら、新しく付加する建築的な対応によって適切な自然光の採り入れや照明計画との融合に工夫し、心地よいスペースを作り上げることに配慮している。

データ

所在地	大阪府八尾市	構造/築後年数	在来木造/70年
該当工事面積	181 m ² /総工事床面積	181 m ²	該当部分工事費 3,440 万円/総工事費 4,300 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満： 2 人/65歳以上： 1 人/15歳未満： 人/ペット：		
設計者	担当者	小林 広英(京都大学)・田村 利夫(AZU設計工房)	
施工者	担当者	(株)岡本工務店 堀 真弘	

リフォーム前

リフォーム後

